



応急復旧作業



水道管から漏水が発生、応急復旧訓練を見学する川並小学校の児童たち = 大垣市河川防災ステーション（同市馬の瀬町）

『震災想定 140人が給水や配管復旧手順確認！』 大垣で水道防災訓練

- 日本水道協会中部地方支部の合同防災訓練が11月11日（水）から2日間の日程で、大垣市河川防災ステーション（大垣市馬の瀬町）を主会場に開かれた。岐阜、三重、福井の3県から支部会員や大垣市指定管工事業協同組合の関係者ら約140人が参加し、水道管の応急復旧や応急給水訓練を実施したり、その様子を見学したりした。

訓練は岐阜県西濃地域で震度6強の激しい揺れに襲われ、水道管が破裂などの大規模な被害が発生したとの想定で展開。大垣市から近県への応援要請を求めた情報伝達訓練からスタートし、現地応援本部設置や応援隊の受け入れ訓練に臨んだ。

午後からは破断した管路の応急復旧訓練と断水による応急給水訓練を実践。応急復旧は「離脱破損」と「漏水」それぞれで状況や工法を変えた2パターンを設定。このうち、直線化した管部の漏水対策訓練を担った岐阜市は、パイプ断水機で挟み込んで止水し、損傷部分を切断後、ジョイント部材を使用して復旧する工法を披露した。



現地応援本部を設置し活動内容の打合せ訓練の様子

『災害時の断水想定し給水訓練！』 川並小児童26名

かわなみ

応急復旧訓練を見学した川並小学校4年生児童たちは「水がもの凄い勢いで噴き出しビックリした。とても危険で大変な作業だったけど、こういう人達が水道を早く直してくれるから、僕たちも美味しい水を飲むことができる」と話してくれた。その後、児童たちは、ローリー車の水の入れた非常用飲料水をリュックサック形の非常用給水袋に水をためるなど、飲料水を確保する方法についても学んだ。



信田直巳氏

坂部典明氏

一連の訓練を終えた解散式で、中部地方支部長代理の信田直巳・名古屋市技術本部管路部長は「テキパキとした行動で訓練を実施していただき感謝。今回の訓練を通じて関係者との面識もできた。有事の際は、泥水の中で作業が困難を極めることが想定されるが、それぞれの機関が協力・連携し、被害を最小限に食い止められるよう、皆さんの今後の活躍に期待する」と呼び掛け評価した。また、開催地を代表して、坂部典明・大垣市水道部長は「早期の応急復旧活動を迅速かつ的確に実施されるよう平常時の教育と訓練に期待する」とエールを送り締めくくった。

『災害対策車両展示』 国も訓練に参加！

排水ポンプ車



国土交通省木曽川上流河川事務所は、本訓練に参加し、災害対策車両（排水ポンプ車、照明車）の展示を行った。

このうち、照明車は地上最大20mまでブームを伸ばし、照度2,000W×6灯を点灯し、参加者らは、その機能を見学し実感した。

照明車

